

2021/7/20

(オマケの英語教室) 書庫版

Danger



最近、当然ですが「歩行者用の歩道」就中下り坂の歩道を減速もせず、呼び鈴も鳴らさず、追い越しの声かけもせず思い切りのスピードで追い抜いていく自転車が散見されます。自分もこの1週間で二回程「あわや」という目に遭いました。

自分は、仕事中は英語半分日本語半分の生活をしている事や、どちらの言語によらず咄嗟の場合には長さの短い方を発する傾向があるようで、今回の場合にも

「Wow, Danger!!」

と思わず大声を上げてしまいました。

この場合の Danger は、我々が学校で習った通り「危険だ」「危ない」の名詞形です。

ところが同じ Danger でも使われるシーンによって「危険」以外にもどうやらいろんな意味合いがある事がわかってきました。

例えば、自分はよく外国人従業員から

「Shachou san wa very danger man」

と言われるのですが、聞いているとこれはどうやら「アブない (crazy な) 奴だ」というより「おっかない (like a rolling thunder な) 人だ」という意味合いで言っている様なのです。

何故ならこそこそ言わずに面と向かって笑いながら言うからです。いくら外国人でも上司に面と向かって度々「アブねえ奴だ」というのは流石にないでしょう。

ところがまた別のシーンではこの Danger が全く違った意味でつかわれている事がありました。

それは自分が店を始めたばかりの頃、新しく来たネパール人チーフ・コック (今の料理長ではありません) と話したカレー料理の師匠であるネパールボスが本人のいない時を見計らって

「He is very danger man. Very clever like a fox. Be careful. Ki wo tsukete kudasai」

といったのです。

この場合の Danger は「狡猾な」「ズル賢い」「裏のある」「本心をあらわさず駆け引きにた

けた」という意味あいでした。それは最後の「狐みたいな」の一語で分かりました。

では、お前がここで言いたいのは一体何なのだ？

と問われれば

「辞書は参考程度にして体験から学びなさいね」

という事です。

もし冒頭以外の Danger を「危険」とだけしか解釈できないでいたら二番目の話に出てくる当店の外国人従業員とは気まづくなっていたでしょうし、三番目の話に出てくる忠告は「粗暴で包丁を振り回す様な」イメージで捉えていたら、向ける注意の矛先を間違えていたでしょう。つまり暫くその新参のコック長を観察して「粗暴じゃない」事が分かると注意の矛先が違っているので安心して「気を抜いてしまう」事にもなりかねませんでした。

一つの単語が状況に応じていろんな意味を持つ。

逆に言えば同じ単語でも使い方次第でいろんな表現が出来る。

それに気づいて、慣れていけば少ない単語数でかなりカバーできる事が分かってきます。

そういえば幼子がそうです。語彙数が圧倒的に少ないので、同じ言葉を使っていろいろな意味合いを持たせています。そうして成長するに従って個々の的確な単語を覚えていきます。

ですので、大人である我々もその成長過程をなぞってみるのもいいかもしれません。

或いは雷や狐など具体的なもので表現するのもいいかもしれませんね。